

目的

群馬県教育委員会とスコットランドとで実施している非認知能力の評価・育成事業における共同研究を円滑に進めていくため、教育委員会職員及び県内教職員がスコットランドを訪問して、現地の学校との連携に関する具体的な方策について協議等を行う。

期間

令和6年11月11日（月）～16日（土）

日程

- 11月12日（火）学校視察（クレイギー高校）
- 13日（水）学校視察（ローズバンク小学校）
- 14日（木）教員研修及び質疑（クレイギー高校）

参加者

群馬県教育委員会事務局高校教育課 課長
群馬県立伊勢崎高等学校（SAH指定校） 校長及び教諭
群馬県総合教育センター高校教育研究係 指導主事及び長期研修員
群馬県教育委員会事務局総務課学びのイノベーション戦略室 指導主事 2名

スコットランド共同研究に係る教職員の海外視察（まとめ）

5月の視察

- スコットランドの教育システムや理念の理解に重点（事務局による視察）

11月の視察

SAH指定校管理職及び教員

- 具体的な教育実践について、共同研究校の校長や教員同士が意見交換を行い、実践的な研究を進める体制を構築することができた。



- 共同研究
- 学校経営
- 地域・保護者
- 教員研修

総合教育センター指導主事及び長期研修員

- 教員研修への参加や、児童生徒が自主性・自律性を発揮する学びを実際に体験することで、今後の研修や教育施策に活かせる知見を得ることができた。



- 教員研修
- 長期研修員による研究

県教委事務局

- 群馬県教育委員会やSAH指定校とスコットランドの関係機関との信頼関係を深めることができた。



- 共同研究

スコットランド共同研究に係る教職員の海外視察（共同研究）

教育に関する意見交換（アクションリサーチ）

- ◆ 非認知能力の育成
 - ・ 群馬の学校教育（中学校・高校）について
 - ・ 日本の学校の掃除文化に共感（ローズバンク小学校）
 - ・ 労働環境（勤務時間や研修）の違いについて（クレイギー高校）
- ◆ 学校目標の共有
 - ・ 教員、生徒、保護者、地域など様々な関係者と共有
- ◆ 管理職の役割
 - ・ 教員としての資質・能力の基準が示されており、一定の指示は可能
 - ・ チームワークを重視することが重要



スコットランドにおける探究的な活動等

- ◆ 探究的視点を重視
 - ・ 中等教育前期：「何が？なぜ？どうして？」に焦点を当てた探究的学習
 - ・ 中等教育後期：自主的に学習し、ジュニアで培ったスキルを活用する教育
- ◆ 体験型のカリキュラム
 - ・ STEAM教育の導入
 - ・ VRを活用した体験型学習

スコットランド共同研究に係る教職員の海外視察（共同研究）

参加者の感想

- 今後の共同研究に向けて、**お互いに良いところを受け入れながら、子ども達の成長をサポートできるような取組**を考えていけると良いと感じた。
- **体験活動を重視**していることをもっと日本の高等学校でも取り入れることができれば良いと感じた。



共同研究に向けて（伊勢崎高校）

- スコットランド訪問を受けて実践すること
 - ・ 教員研修の運営方法や内容の再考
 - ・ 学校目標の共有
 - ・ 生徒がリラックスできるような空間の提供
 - ・ 手軽に書籍を手にする事ができる仕組みの構築
- 生徒の探究活動の交流
 - ・ 類似している地域課題についての情報交換・共同研究
- 指導方法の共有
 - ・ お互いの良いところを共有



スコットランド共同研究に係る教職員の海外視察（学校経営）

スコットランドの教育

学年とBGEの段階

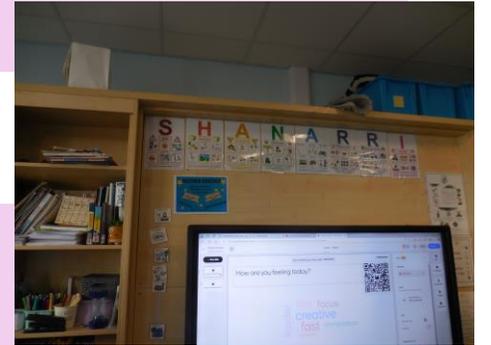
社会的スキル育成

- ◆ 幅広い一般教育（BGE）
 - ・ 3～5年生が合同で活動し、レベルに応じた学習を実施
 - ・ 社会的スキルも段階的に習得



学校目標の共有

- ◆ 学校の方針や目標を明文化し、あらゆる場所に掲示
 - ・ 「SHANARRI」掲示で自己管理を促進
- ◆ スタッフミーティングによる共有
 - ・ 年6回のミーティングで学校目標を確認し、教員間で情報共有
 - ・ 週1回30分の短時間ミーティングで日常的に目標の進捗を確認



「SHANARRI」

Safe（安全）
Health（健康）
Achieving（達成）
Nurtured（育成）
Active（活動的）
Respected（尊敬）
Responsible（責任）
Included（包含）

学習環境の工夫

- ◆ 読書と学習支援
 - ・ 本を自由に手に取ることができる仕組み
 - ・ 座ってられない生徒のための立ち机も用意

スコットランド共同研究に係る教職員の海外視察（学校経営）

参加者の感想

- 生徒一人一人に役割を与え、責任感を持たせているのは、いいことだと感じた。些細なことにも目を向けたり、目標を共有したりと**子どもの成長を学校全体でサポート**している。
- 学校や教室内の掲示物は目標や役割、学習に必要なことなど、意味があるものが多かった。特に**教室は、目標がよく見えるところに掲示**されていた。子どもたちにもよく共有されているようだった。
- 縦割りで生徒同士が交流することで、生徒間の連帯感を深め、**学校全体が一体となって活動できる環境づくり**に繋がると感じた。



視察からの気づき

- ◆ 日常の学校生活や授業の中で、社会で必要なスキルが身に付くような取組が必要がある。
- ◆ 学校目標を教職員や生徒、保護者、地域等で共有できるように、掲示の方法や発信の仕方などを工夫し、多くの関係者に周知させることが大切である。
- ◆ 行事だけではなく、年間を通して縦割りの活動を行うことで、学校全体の一体感が形成される。

スコットランド共同研究に係る教職員の海外視察（地域・保護者）

スコットランドの教育

貧困対策

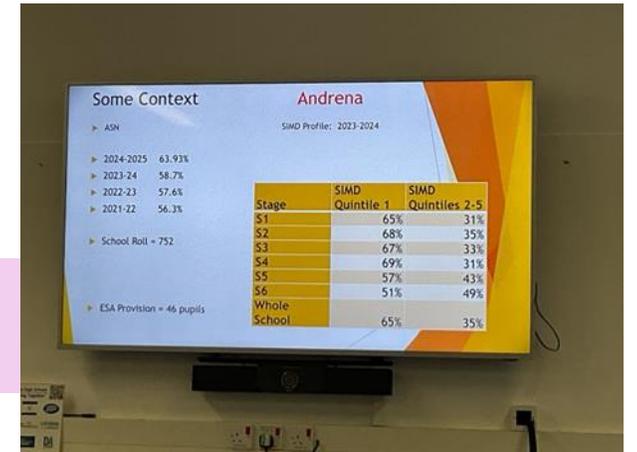
- ◆ 貧困問題を抱える生徒（SIMD）
 - ・ 約60%が在籍しており、全生徒を平等にサポート

支援重視・多文化共生

- ◆ 支援を重視した学校運営
 - ・ 支援が必要な児童を受け入れ、安定した学習環境を提供
- ◆ カリキュラム
 - ・ 生育環境などの生徒の背景を考慮し、学習以外の多様な体験を提供

ハウスシステム

- ◆ 生徒の変化を見取る工夫：
 - ・ 遅刻や服装の変化から家庭環境を把握し、サポート
 - ・ 朝食支給及び衣食住の充実をサポート
 - ・ 「誰にでもチャンスがある」という考えのもと、社会に出るための基盤づくりを支援



スコットランド共同研究に係る教職員の海外視察（地域・保護者）

参加者の感想

- 学校と保護者の関わりについて教員の仕事としてが日本と似ているところもあるが、保護者の意識が違うと感じた。具体的には、日本は学校が保護者の要望に答えることが多いのに対し、スコットランドは**保護者ができないから学校がその代わりにサポート**し、保護者が感謝する。
- クレイギー高校の教員は、日本の教員と同じように多忙感があるように感じた。一方で、少人数であることや**地域や保護者からの信頼されていることなどで、やりがいを感じている**と思った。学校が生徒の生活を支援することに対して、保護者が感謝する姿勢が厚い。
- 日本の学校は、保護者対応など児童生徒の支援以外の時間が多い反面、**クレイギー高校は生徒と関わる時間が多い**。



視察からの気づき

- ◆ 学校目標を地域や保護者と共有し、連携しながら子どもの成長を支える仕組み作りをすることで、地域や保護者への学校の教育活動の理解につながる。
- ◆ 支援が必要な生徒に対して、保護者と寄り添いながら個に応じて生徒をサポートしていくことで、保護者との信頼関係が向上する。

スコットランド共同研究に係る教職員の海外視察（教員研修）

スコットランドの教育

教員研修@クレイギー高校

- ◆ プリンシパルティーチャーが担当
 - ・ 役割：教科主任かつ研修主任
 - ・ 業務内容：自分の担当教科の教員を管理
 - ・ 現在17名のプリンシパルティーチャーが在籍
- ◆ 使用教材
 - ・ 市販の冊子「POWER UP YOUR PEDAGOGY（教育の質向上を目的とした教材）」



研修およびターゲット設定

- ◆ 研修の時間や勤務
 - ・ 年間144時間の研修＋35時間の自己研鑽時間を確保
 - ・ 週35時間勤務（24時間授業、11時間準備）
- ◆ 教師のゴール（GTC）
 - ・ 政府から教員向けガイダンスの実施が義務づけられ、学校は経営方針について教員に説明
 - ・ 教員は学校の目標を中心にターゲットを設定し到達度を検証（未到達はペナルティ）

スコットランド共同研究に係る教職員の海外視察（教員研修）

参加者の感想

- 研修会では、軽食や飲み物などが提供され、和やかな雰囲気の中で進行された。**参加者たちは楽しみながらも熱心に参加**しており、内容理解の確認方法として、ホワイトボードに絵を描いて全員で見せ合うといったユニークなアプローチが印象的だった。
- **学校全体で指導方法を共有**することの重要性を改めて感じる機会となった。
- 勤務時間の中に、研修の時間も含まれており、**自主性、主体性が重視**されている印象を受けた。



視察からの気づき

- ◆ 校内研修において、研修の方法や運営について、ゆとりを持って教員が研修に参加し、授業方法や学校目標の共有などが行えるような、研修の方法や運営が必要である。
- ◆ 教職員研修機関において、非認知能力の育成への実践的な研修や教職員への教育ビジョンの共有など現在のニーズに合わせた研修を行う必要である。

（参考）教員の研修への取組に関する割合

	私が教える一部またはすべての科目の授業実践、教育法、内容			教科横断的なスキルの指導（例：創造性、批判的思考、問題解決）		
	研修	自己	なし	研修	自己	なし
	%	%	%	%	%	%
National entities						
Bulgaria	61.5	32.1	6.5	51.9	31.2	16.9
Chile	63.7	23.9	12.3	58.4	27.0	14.6
Peru	44.2	42.5	13.3	47.6	43.0	9.4
Spain	51.1	36.4	12.6	40.0	33.7	26.4
Ukraine (19 of 27 regions)	60.5	32.2	7.3	53.8	41.0	5.2
Other participants						
Bogotá (Colombia)	60.2	31.7	8.1	53.5	32.9	13.6
Delhi (India)	64.8	29.1	6.1	64.3	30.8	4.9
Dubai (UAE)	43.6	53.9	2.5	38.7	57.6	3.7
Emilia-Romagna (Italy)	65.1	22.2	12.7	55.8	27.0	17.2
Gunma (Japan)	73.2	10.2	16.6	60.8	8.7	30.5
Helsinki (Finland)	75.1	16.4	8.5	47.8	16.6	35.6
Jinan (China)	51.3	45.6	3.1	45.7	45.8	8.5
Kudus (Indonesia)	70.7	27.0	2.2	61.9	32.7	5.4
Sobral (Brazil)	60.0	31.1	8.9	45.3	33.6	21.1
Turin (Italy)	67.9	20.8	11.3	50.9	24.3	24.9
Average	60.9	30.3	8.8	51.8	32.4	15.9

OECD SSES Round2 報告書より